

3) 莢の特性

スノークロップ 112 の莢色は濃緑で、葉の色も濃く、その濃さは際立っており、他品種との色の違いが一目でわかります。一般に濃緑品種は莢の曲がりかひどいものが多い中であって、この品種はほとんど曲がらず、その結果秀品率が高くなっています。

スノークロップ 112 の最大の特徴は、その莢の細さにあります。莢が非常にスリムであるため、見た目に柔らかさと新鮮さをももたせています。また、子実の肥大に伴うくびれや、穫り遅れによる太り、曲がりが生じないのもこの品種の大きな特徴です。

4) 収量性

前述のとおり、非常にスリムな莢のため一莢重が軽く、必ずしも多収品種であるとは言えませんが、莢数は多く、また秀品率が高く屑がほとんど出ないので収益性の高い品種です。

これまでの収量さえあがれば良しとする考え方では、労力をかけた割には収益があがらないケースが多々みられました。このように、品種面からも品質の優れた品種を用い、上手な栽培のもとですばらしい商品をつくりあげることが、今後ますます重要になってくると思われます。

6 さ い ご に

最初に述べたとおり、インゲンマメは管理のし



写真3 スノークロップの荷姿
(左：S規格、右：M規格。各2kgダンボール)

やすい非常につくりやすい作物ですが、収穫時期はかなりの労力が必要となります。従って、1戸当り(労働力2人として)の作付面積は、3a(約100坪)が限界といわれており、それ以上の作付をする場合は、収穫期がぶつからないように播種期を少しずつずらしながら行なっているところがほとんどです。

またインゲンマメの市場評価は、関東(東京周辺)と関西(京阪神周辺)では全く反対で、関東がつる性のケンタッキー・ワンダーのような莢のくびれた平莢タイプの価格が高いのに対し、関西ではスノークロップ 112 のような典型的な丸莢タイプを好む傾向があり、その点も十分考慮して品種並びに出荷先を選定する必要があるといえるでしょう。

ハウレンソウ新品種 「ジュリアス」の特性と栽培のポイント

雪印種苗(株) 中央研究農場 安達英人

ハウレンソウは野菜の中でも鉄などのミネラル類やビタミン類を豊富に含んでおり、栄養価の高い緑色野菜として安定した需要があります。浸し物から油いためなど多彩な料理方法があり、調理も簡単であることから広く利用されています。

従来は春・秋播き栽培が主流で、夏播き栽培は困難とされてきましたが、F₁品種の開発や栽培技術の進歩により、また出荷量の少ない時期の市場価格が高価に推移しているのと相まって北海道や高冷地での夏播き栽培が増加しています。このた

め、この時期の栽培に関心
がもたれますが、適切な栽
培管理とより適した品種の
開発が必要となっています。

弊社では、春・秋播き用
品種のニューサッポロ、夏
播き用品種として加工用の
ニューキング等を既に発売
し、ご利用いただいており
ますが、夏播き用品種とし
て「ジュリアス」を今春か
ら新発売することになりま
したので、品種の特性及び
栽培のポイントをご紹介します
いたします。

1 「ジュリアス」 の特性

夏播き用の品種は、生育
が早く、耐暑性・耐病性を
備え、晩抽性であることが望まれます。また、品
質の面からは、葉色が濃緑色で、葉面の縮みが少
なく、尖葉であることが望まれます。

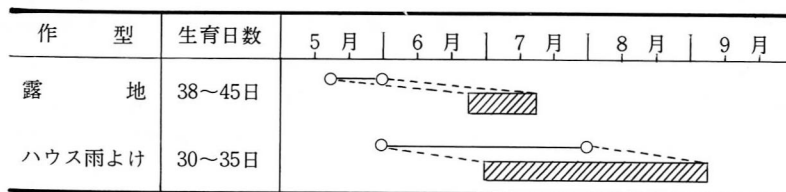
「ジュリアス」は、これらの特性を兼ね備えた夏
播き用 F₁ 品種で、弊社が開発した優良品種で、
「ジュリアス」とは「七月」を意味します。

① 生育が早く旺盛

「ジュリアス」は従来の品種より生育が早く、高
温期の伸長も旺盛なため、露地の5月中旬播種で
は播種後38～43日、6・7月播種では播種後30～35
日で収穫することができます。また、雨よけハウ
スでは露地より5～7日早く収穫できます。

② 抽苔が遅く安定している

「ジュリアス」は晩抽性品種ですから、収穫期以
前に抽苔する心配はありません。また、6・7月播



注) ○—○ 播種期 収穫期

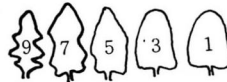
図1 ジュリアスの適応作型

表1 ホウレンソウ作期別の品種比較試験

(昭60. 雪印種苗・中央研究農場)

品 種	抽苔始	葉 色	葉 形	欠 刻	葉 面	規 格 内			抽苔率
						葉 長	葉 幅	一株重	
		月 日				cm	cm	g	%
《5月14日播種		6月25日調査(41日目)》							
ジュリアス	6. 29	6. 0	1. 0	1. 0	4. 5	22. 4	9. 4	28. 4	—
サンライト	6. 21	5. 5	3. 0	1. 0	5. 5	23. 4	10. 5	31. 4	46
晩抽パイオニア	6. 21	5. 5	3. 0	1. 0	5. 0	22. 4	9. 4	34. 0	43
キャニオン	6. 22	5. 0	4. 0	1. 0	6. 0	23. 7	9. 7	31. 5	76
シンフォニー	6. 24	6. 5	1. 0	1. 0	3. 5	20. 0	8. 4	22. 1	22
《6月1日播種		7月10日調査(39日目)》							
ジュリアス	7. 7	7. 0	3. 0	2. 0	4. 0	22. 4	10. 2	27. 4	26
シンフォニー	7. 4	6. 5	3. 0	1. 0	4. 0	23. 4	9. 2	22. 2	81
サンシャイン	7. 10	7. 0	2. 0	1. 0	3. 5	20. 2	9. 1	24. 2	19
ハーモニー2号	7. 13	6. 5	1. 0	1. 0	4. 0	19. 7	8. 9	25. 3	—
《6月14日播種		7月23日調査(39日目)》							
ジュリアス	7. 19	7. 0	3. 0	2. 0	4. 0	28. 2	11. 6	40. 0	33
サンシャイン	7. 19	7. 0	2. 0	1. 0	3. 5	24. 8	9. 6	30. 7	27
ハーモニー2号	7. 21	6. 5	1. 0	1. 0	4. 0	23. 7	9. 8	28. 0	2
《7月1日播種(雨除けハウス)		8月3日調査(33日目)》							
ジュリアス	8. 1	5. 0	3. 0	1. 0	5. 0	24. 9	9. 4	18. 0	15
サンシャイン	7. 30	5. 5	1. 0	1. 0	5. 0	22. 8	9. 0	23. 3	62
クレメント	7. 31	5. 5	1. 0	1. 0	4. 5	20. 8	7. 9	18. 1	18
ハーモニー2号	7. 31	5. 5	1. 0	1. 0	4. 5	20. 1	7. 6	19. 0	17

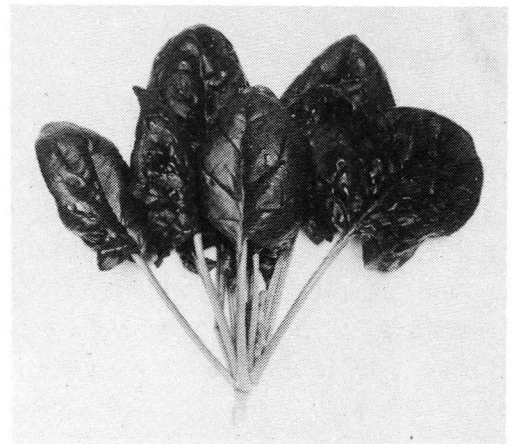
評点基準 葉形



葉色：9(極濃緑色)～1(黄緑色)

欠刻：9(深)～1(無)

葉面：9(極滑)～1(極縮)



きでは収穫期後半になると若干の抽苔がみられる
ことがありますが、この場合でも抽苔始より早く
収穫適期に達するので、適期収穫に努めれば問題

はありません。

③ 草姿が良好

草姿は半立性で、株張りが良
く、また葉身と葉柄のバランス
が良いので結束作業が容易です。

④ 濃緑で品質が良い

葉形は円形ですが、6～7枚目

より葉身の下部が広くなり尖った葉になります。
葉色は濃緑色で、葉面にはやや縮みがみられます。

⑤ べと病に強い

近年、新しい系統のべと病菌(レース3)があらわれましたが、「ジュリアス」はレース1・2・3いづれにも抵抗性を持っていますので、べと病の汚染地域でも心配がありません。

2 栽培のポイント

「ジュリアス」は、北海道及び府県高冷地での露地・雨よけ栽培が中心となります。

ホウレンソウは天候に左右されやすい作物のため、夏季は雨よけハウスでの栽培が望まれます。雨よけハウスはi) 天候に左右されることがなく計画的な生産が可能である。ii) 降雨による損傷がないため秀品率が高まる。iii) 露地に比べ栽培期間が3~5日短縮されるので土地利用率が高まる。等の利点があります。「ジュリアス」を用いて雨よけ栽培を行うことが安定した秀品率の高い出荷につながります。

① 施肥

ホウレンソウは1年に3~4回連作することが多いため、堆きゅう肥や緑肥等によって地力を維持することが大切です。有機質に富んだ肥沃な畑では生育が早まり、優品が計画的に出荷できます。

施肥は、土壌診断の結果によって行うのが望ましいのですが、pHとEC(電気伝導度)を測定して施肥量を調節すればかなりの効果があがります。pHは6~7、ECは0.5~1.5ミリモーターが適当な範囲です。施肥量は表2ぐらいで、全量基肥・全層施肥としますが、特に連作する場合は、ECの値に応じて窒素の量を減らす必要があります。

② 播種とその準備

播種は播種機(条播あるいは点播)か、シードテープを用い、高温期はやや厚目に播いた方がよい結果が得られます。

「ジュリアス」の適する夏季、特に高温期では催芽を行うことが望ましく、最初に種子を10~12時間くらい水に浸漬します。水は流水か、数回水を取替えた方が良く、発芽までの日数が1~2日短縮されます。浸漬後はよく水を切り、涼しい場所に

表2 ホーレンソウの施肥基準 (10a当り成分量)

窒素	リン酸	カリ
12kg	10kg	15kg

種子を薄く広げて催芽します。(時々かきまぜ、種子の表面が特に乾いた場合は水を軽く与える。)播種適期は種子の10%くらいでハトムネ程度に出芽したときですが、播種時に畑が乾燥していると逆に発芽が悪くなるので、灌水してから播種します。

覆土は1~3cmとして、乾燥時にはやや深めとしてよく鎮圧します。夏播きは腐敗や土壌病害による発芽不良となりやすいので、播種時にはチウラム剤あるいはキャプタン剤の種子消毒を必ず行うようにします。

栽植密度は1m²当り80~100株を目標とし、この場合の播種量は10a当り3~4^{かん}lです。

③ 灌水

高温で乾燥する時期の夏播き栽培では、灌水技術が重要なポイントとなります。

播種直後及び生育初期の多湿は病害の発生を助長するので、この時期の灌水は極力控えなければなりません。これ以降に灌水する場合でも、必ず朝・夕の涼しい時間を選ぶようにします。できれば土砂を飛散させないように噴霧灌水方式を用いることが望ましい。また、収穫の7~10日前からは灌水を控えて調整作業中の損傷を少なくして品質の向上を図ります。

④ 収穫

収穫はMクラス(25cm前後)を目標としますが、草丈20cmころから始め、25~27cmまでに収穫を終了するようにします。「ジュリアス」は生育が早いので、5月中旬播種では播種後38~43日、6、7月播種では播種後30~35日で収穫することができます。

夏季の収穫は日中を避け、朝・夕に行うようにします。また、夏季の収穫適期は3~5日と短いので計画的に適期収穫に努めます。

調整、結束作業は日陰の涼しい場所で行うようにし、結束後は予冷庫に搬入し出荷することができます。